

夢に挑戦する相産づくりを目指して

○8月16日(月) 荷物の関係で、車で通勤しましたので、勤務時間終了後、赤穂市坂越に行っ



いきました。坂越は都市景観大賞を受賞し、赤穂八景の1つです。坂越は「播磨灘に位置する天然の良港坂越浦に古代から開けた港町で、17世紀には瀬戸内海有数の廻船業（西廻り航路）の拠点として発展し、西国大名の参勤交代の

港としても使われた。18世紀以降、北前船が停泊する日本海諸港の台頭によって内海の港町の多くが衰退するなかで、坂越は“赤穂の塩”を運ぶ拠点として明治時代まで栄えた。坂越浦から、高瀬舟の発着場があった千種川まで続く“大道（だいどう）”と呼ばれる通りの風格ある町並みは、往時の坂越を今に伝えている。（坂越は）1600年（慶長5年）；姫路藩領、1613年（慶長18年）；岡山藩領、1615年（元和元年）；赤穂藩領、1701年（元禄14年）；幕府領、1702年（元禄15年）；赤穂藩領（明治の廃藩置県まで）」（インターネット；Wikipedia）です。道路や海岸沿いが整備されており、海と島の景色と旧坂越浦会所を見たいと思い出発しました。旧坂越浦会所は「江戸時代後期に建築され、赤穂藩主の茶屋、および坂越村の会所として明治時代まで使用されてきた歴史的建造物（藤村；1831年；天保2年竣工）を博物館施設として活用しているものである。

2階の藩主専用の部屋は「観海楼」と名付けられ、その名のとおり窓一面に坂越の海が広がり、生島が迫る」（インターネット；Wikipedia）建物です。

<写真上；海と島の風景 写真下；旧坂越浦会所>



○被服科の閉科を迎え、同窓会への挨拶

この度、被服科が平成22年度末をもって閉科することになりました。歴史についてはPTA新聞「被服科特集」（裏面）をご覧ください。本校の被服科は出前ファッションショーで有名です。そのために、閉科式典では式典行事と併せて、生徒自らが出演者になり、歴代の卒業生・教職員、一般の方々を

招いて相生市民会館で大々的なファッションショーを行います。被服科では自らの有終の美を飾るために今、全力で取り組んでいます。この生徒達が「夢を育てるものは、努力。努力すればするほど、夢は大きくなっていく。『夢』という生きものは、『努力』という食べ物を食べて大きくなる。『夢』という宮殿は、『努力』という地道な石を重ねて、できあがっていく。」（ある大学創立者の言葉）のように、このショーまでに積み重ねてきた一生懸命の努力が、明日のこの生徒達の栄光の歴史となることを願っています。市民会館で当日2回公演をします。計1,000人の前で公演するのは彼女たちにとって初めてであり、そして最後になります。多くの同窓生の皆さんに来ていただき、後輩に頑張れのエールを送ってやって下さい。お願いします。〈写真下;相生高校の坂より市内を一望〉



○8月16日（月）BSで吉永小百合さんの「平和への絆～原爆詩の朗読」がありました。詩と音楽がコラボレートされており、長い間、吉永さんはこの活動をされています。峠三吉さんの日本原爆詩集『序』の「ちちをかえせ ははをかえせ としよりをかえせ こどもをかえせ わたしをかえせ わたしにつながる にんげんをかえせ にんげんの にんげんのよのあるかぎり くずれぬへいわを へいわをかえせ」の叫び

はあまりにも有名です。私も教員の時は日本原爆詩集から題材を整理して、毎年のように平和学習をしていました。私の近所の方が広島と長崎で二重被爆され、最後はガンで亡くられました。葬式にかかわっていたのですが、骨がボロボロになっていたので何も残らなかったと言われた奥さんの言葉が今も心に残っています。

今年の日本の「学生平和意識調査」では、問「広島・長崎への原爆投下に対してどう考えていますか」に対して、「許せない」53%、「どちらともいえない」33%。問「今後、戦争・紛争で核兵器の使用はありうると思いますか」に対して、「必ずある」30%、「ありうる」47%で、「ない」18%に過ぎませんでした。核使用は77%がありうると思っているのに驚きました。

今年5月28日核拡散防止条約（NPT）再検討会議の行方に注目していました。というのは私が関係するNGOで核廃絶のための270万署名をこの会議に提出しました。会議の結果、実現期日は示せなかったものの「核兵器禁止条約」構想に初めて言及しました。日本の新聞各紙（読売・朝日・毎日新聞）は「核のない世界」への大まかな道筋は示されたと評価していました。

余談ですが、ルース駐日大使が日本に着任でされた後、私の恩師と長時間の対談をされており、その関係で、勝手にルース氏に親近感をもつようになりました。